

事例8 題材「世界の音楽めぐり」

世界の音楽を聴こう！やってみよう！

～ 表現と鑑賞の関連を図って ～

音楽 第6学年

中能登町立鳥屋小学校・教諭

1 事例の概要

本校6年生の子どもたちは、テレビから流れる流行の曲やCMの曲に敏感であったり、好きな曲をキーボードで弾いたり、「音楽」に親しむことには興味がある。半面、音楽の授業になると歌う声は小さくなり、伸び伸びと自分を表現することに恥ずかしさを感じている様子が伺える。

音楽の時間は、文字通り「音を楽しむ」時間であってほしいと願うのだが、その「好きな音楽」と「音楽の授業」の間には、大きな壁があることを日々感じている。この子たちが、音楽の授業を「楽しいな」と思うためには、子どもたちの意欲をいかに喚起し、主体的に取り組む姿をつくるかが求められていると感じた。ちょうど、6月に「古典芸能鑑賞教室」があり、箏・三味線・日本舞踊に触れる機会があったため、子どもたちの和楽器に対する興味・関心が高まっていた。また、6年生の鑑賞教材「春の海」で和楽器について学習することもあわせ、魅力のある教材として子どもたちに和楽器（箏）を体験させる授業をしたいと思ったのが、今回の実践のきっかけである。

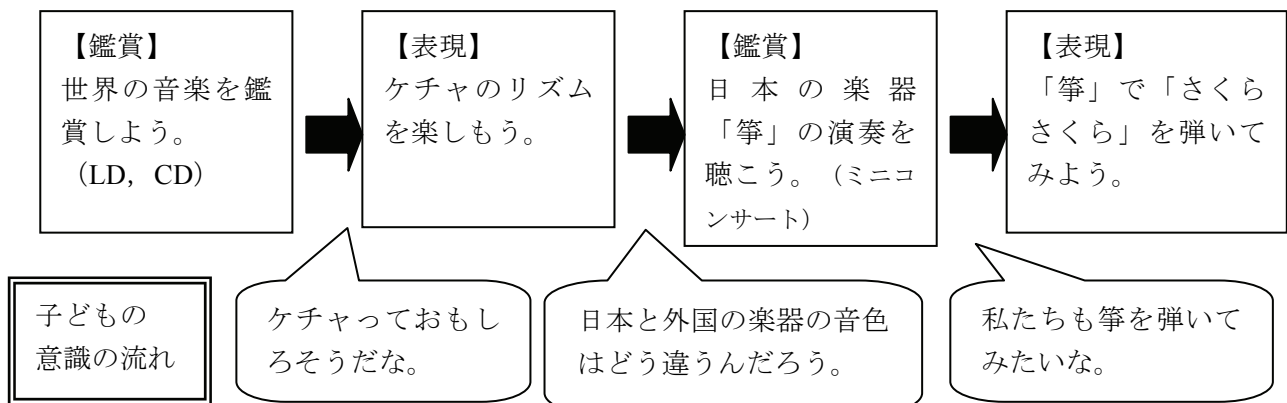
2 実践内容

(1) 題材の目標

- ・我が国の音楽を含む世界の多様な音楽のよさを感じ取って聴いたり、意欲的に表現したりする。
- ・箏のもつ独特な音色や奏法を味わい、我が国の音楽への関心を高める。

(2) 指導上の工夫点

「表現と鑑賞との関連」から、次のような活動を設定した。鑑賞と表現を挟むことで、「おもしろそう→やってみたい」の意欲の流れが生まれると考えた。子どもが自分の感性を働かせ、感受したことを大切にして、授業を進めるようにした。



B-1 活動計画と学習指導の工夫

B-2 評価の工夫

B-3 実践の内容

3 指導の実際

学 習 活 動 と 意 識 の 流 れ	●留意点 ◇◆支援 評価
<p>1. 課題をつかむ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">「さくらさくら」の曲を楽しみながら演奏してみよう。</div> <p>2. 5グループに分かれ、練習をする。</p> <p>○主旋律が弾けるようになろう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 200px;">最後まで弾けるようになりたいな。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 200px;">「五六八七六一」のリズムが難しい。歌詞と合わないなあ。</div> </div>	<p>●前時にゲストティーチャーに指導していただき、基本的な箏の弾き方を知っておく。</p> <p>◇「七・七・八・・・」という風に弦の番号でも歌ってみる。</p> <p>評価観点①</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・箏の音色を楽しみながら、積極的に演奏しようとしている。</p> <p>【行動観察】</p> </div>

C-1 指導案

C-2 ワークシート

4 成果と課題

(1) 成果

- ・成果は、何よりも授業後のアンケートでほぼ全員が「箏を演奏できて楽しかった。」と書いてくれたことである。「音楽の授業が楽しい」と思えることが一番にあり、そのための意欲を喚起させる手立てとして今回の実践を試みた。当たり前であるが、主体的に学習する姿勢がどれほどの学習効果をもたらすかを改めて実感した。
- ・表現と鑑賞の関連を図るという部分では、LDや生演奏の鑑賞の後、自分たちもやってみるといふ、子どもの関心・意欲・態度を高める点でよく機能できた。また、音楽的なつながりの部分でも、箏の生演奏の場面を目の当たりにすることにより、自分たちの副次的な旋律や伴奏の創作へと発展させることができた。
- ・1時間に2つの評価場面をつくったのは、正解だった。行動観察の場合、活動中の子どもたちと関わりながらの評価になるので、なかなか全員を見ることができない。評価観点を絞って行動観察をすることが有効だと感じるが、振り返りの自己評価や他者評価を見る中で、教師がつかめなかった子どもの様子を把握することができた。
- ・授業の様子をビデオカメラで撮り、記録として残したのもよかった。活動中の子どもの様子がつかめたり、教師がみられなかった場面を確認したりすることができた。同時に、自分の指示の出し方・発問の分かりやすさを振り返るよい機会となった。

(2) 課題

- ・この活動を計画するにあたり、周りの協力がなければできなかった。今回は、物的にも人的にも恵まれていたが、もし何もない状況でもこのような授業をしたいと思ったときに、ゲストティーチャーの手配や楽器の貸し出しなどすぐに行えるシステムが確立していればよいと感じた。
- ・時間いっぱい活動で振り返りカードを書いて終わることが多かったが、もう少し子どもたちの感想を交流しあえばよかった。友だちの考えを聴くことで、自分の思いとの違いを感じることができただろう。
- ・世界の民族音楽の実践で、音楽的なつながりをもった表現と鑑賞の関連を図ることができなかった。子どもたちが感じた「おもしろさ」を音楽を特徴付けている要素として、子どもに指導し、それを自分なりに工夫して表現できるよう今後この点を考えていきたい。
- ・音楽に限らず、活動中の場面で全員をどう評価できるかは自分の中でも大きな課題である。